

# これまでの5年 これからの未来

「追悼」、「継承」、「復興」、それぞれの視点から現在の思いを寄稿していただきました。

## 地

### 震から5年、感謝を込めて



ご遺族  
まつのりょうこ  
松野良子さん

熊本地震から5年の歳月が流れました。地震によって亡くなられた方々に、ここに謹んで追悼の意を表します。まぶしいばかりの新緑と可憐な花々が咲く頃に起きた地震。以来この季節が巡ってくるたびに、悲しく辛い記憶が蘇ってきます。

しかし、これまでの日々は、私の暮らしや気持ちに変化をもたらしました。市ノ後の実家跡に家を再建し、移り住んで2年半、生活も落ち着いてきました。今は地域の中の一員として、私にできることに取り組んでいます。地区の高齢者相談員・地域福祉委員、稲作の手伝い、木山肥後神楽の伝承、阿蘇牧野緑化ボランティア。どれもが熊本と益城町を愛する気持ちにつながります。そして、私たちの大切な故郷の復興を目指しつつ、仲間たちと有意義な人生を歩んで行きたいと思えます。いつも優しく見守って下さった地域の皆さま、同級生、親戚に心から感謝致します。

## 熊

### 本地震を経験して伝えたい



広安小自主防災クラブ  
たけはしあすか  
副会長 竹林明日香さん

熊本地震から5年が経ちますが、今でも本震直後の光景が思い出され

ます。避難所では、主に小中学生が配給を手伝っていました。人のために行動している姿を見て、私もできることをしたいと思い、ボランティアを始めました。この時、学生ボランティアのリーダー格として活動したことがきっかけで、自主防災クラブに所属することになり、現在に至ります。

経験者として、熊本地震を知らない世代に伝えたいことがあります。それは、日頃から災害が起きた時のことをイメージしておいてほしいということとです。どこに避難するのが安全か。道路が通れない場合は。例えば、避難経路は一通りではなく、複数考えておくことと安心です。熊本地震から5年を迎える今、あらためて災害について家族みんなで話し合う機会を持つていただけたらと思います。

## つ

### たえる



益城中生徒会  
つねまつだい  
会長 恒松大智さん

今年の4月で熊本地震から5年になります。今思うことは「つたえる」ことの重要さです。

今でも見るブルーシートで覆われた屋根の家。あの日の景色が、頭の中に浮かんできます。そのことを、今年4歳になる弟にも伝えていきたいと思えます。

さて、私が通う益城中学校では、新校舎が完成し、4月8日から新たな環境での生活が始まります。とても楽しみです。2年間を過ごしたプレハブ校舎に別れを告げるのも寂しいです。これまでの生活は、制約も多かったのですが、愛着が湧いてきて、良い思い出もたくさんできました。このように、思いは複雑に絡み合っています。新校舎建設に関わっていただいた関係者の方々への感謝の想いを胸に、新たな学び舎で、前を向いて学習しながらも、過去の災害の記憶・教訓を伝えていくことを忘れないようにしたいです。

## 熊

### 本地震から五年を迎えて



木山中生徒会  
あおきたから  
会長 青木誉来さん

私が津森小学校4年生の時、大きな揺れが益城町を襲いました。熊本地震により私たちの住む町は、家の瓦が落ち、道路が崩れて通れなくな

るなど、大きな被害を受けました。木山中学校では、2つの渡り廊下が倒壊し、教室で勉強することができなため、中学生の皆さんは、益城中央小学校で授業を行っていたと聞きました。その後、私たちが入学する頃には、渡り廊下も新しくなっていて、復興が進んでいることを実感しました。

私たちは、復興に向けた取り組みとして、「復興は木山中からプロジェクト」を行いました。この取り組みでは、地震後の益城町や木山中学校、校区の『今』を次世代に伝えるための映像作品を制作し、文化活動発表会などで地域へ発信しました。熊本地震から5年、今後も町の復興とさらなる創造を目指し、さまざまな取り組みを行っていききたいと思います。